

一日の始まりの、ほほ笑ましい光景だ。
 今日も高橋さんのホイッスルの音が横断歩道に響いている。

朝の空気を震わせるホイッスルの音、交わされるあいさつ……。こは、音と笑顔の交差点。高橋さんにとっては、もはや当たり前となってしまうというこの朝の日課だが、そのおかげで子供たちは安全に安心して横断歩道を渡ることができる。

高橋さんは、朝6時半頃から「こは」に立つ。子供たちとほほ笑む顔なじみだ。この日、最初の子供がやってくる。「おはよう」「おはようございます」とお互いに大きなあいさつを交わすと、高橋さんは「あの子はいつも早く来るんだ。それで、あそこの石に座ってみんなに元気いっばいのあいさつをするんだ」そんなことを教えてくれた。

「子供たちが安全に渡ることができるように見守るのが日課になっているんだ。小さな子供たちには信号を守る意識をしっかりと身につけて欲しいからね」



「ピーピー」。

響き渡るホイッスルの音。
 その音は、朝の澄んだ空気を切り裂き、心が引き締まるような鋭さの中に、どこか温かさを含んでいるように感じられた。その理由は、このあとすぐに分かるのだが、この時その音はサッカーの試合開始の合図を連想させた。

こは天竜区の山東という地域にある横断歩道。すぐそばには小さな川が流れ、同じく小さな橋が架かる。春になるとこの川沿いの桜が見事に咲き誇り、この道を通る人の目を楽ませる。

しかし、花に見とれてはいけません。脇見運転は事故のもとである。この道は、山東から春野町方面へ向かう国道。特に朝の時間帯には交通量が多い。近所には小学校もあり、通学路にもなっている。登校時間帯にはたくさんの子供が、この道にかかる横断歩道を渡る。

この道を利用するのは、歩行者ばかりではない。学校へ通う高校生が乗る自転車、路線バス、工事現場へ向かうトラック……。一日中こは立ってれば、ありとあらゆる種類の交通手段を目にすることができると言っても、おそらく過言ではないだろう。

そんな交通の行き交う通学路に朝早くから立つ人がいる。ボランティアで交通安全指導員を務めている高橋さんだ。高橋さんは、この横断歩道の押しボタン式信号機の所に立ち、横断する子供たちが安全に渡れるように、交通整理をしている。

暮らしが見える。感じる体温。
 Tenryu + Plus

子供たちに安全に渡ってもらう。
 それが私の日課ですよ。